

令和6年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号	6401	学校名	華陽フロンティア高等学校（定時制）
------	------	-----	-------------------

学校教育目標 (教育方針)	<p>1 高校生としての基礎的・基本的な知識や技能と主体的に学習する意欲や態度を身に付けさせ、生徒一人一人の個性を伸ばし、心豊かでたくましく生きる力を育む。 2 社会の規範を守る態度を養い、地域社会の一員としての自覚を高める。 3 健康で安全な生活を送るため、基礎体力の向上を図り、健康な心身の保持増進に努める態度を育む。</p>	
3つの方針 (スクールポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【GP】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎的・基本的な知識や技能を身につけた生徒 ・ 主体的に学習する意欲や態度を身につけた生徒 ・ 心豊かでたくましく生きる力を身につけた生徒
	生徒をどう 育てるか 【CP】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「わかる喜び」の涵養（学びの「再チャレンジ」） ユニバーサルデザインを意識した授業／ICT機器の積極的な活用／半期ごとの単位認定 ・ キャリア教育の推進 「コミュニケーション能力」の向上／社会的、職業的自立の支援 ・ 「カウンセリングマインド」に基づく積極的傾聴（共感的理解・無条件の肯定的関心・自己一致）
	どんな生徒を 待っているか 【AP】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「自分の生き方」を真剣に考え、やると決めたことはあきらめない生徒 ・ 「なりたい自分」を見つけたいと願っている生徒 ・ 自分にも、周りにも、優しい言葉をかけてあげられる生徒
学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会自立に必要な基礎学力を定着させるため、学力向上に接続できるような授業展開の検討と実践。 ・ SSTで身に付けた力を授業において効果的に活用し、社会的に自立するためのスキルの獲得を目指す方法の検討と実践。 ・ 入学時から卒業後を見据えた進路意識を涵養するため、地域創生キャリアプランナーやハローワークジョブサポーター、キャリアパスポートを活用しながら、自己の将来像を描くためのキャリアカウンセリングを実施し、自己肯定感と社会に貢献する意欲を醸成。 ・ 様々な問題を抱えた生徒に対する個に応じた指導の充実。 ・ 高校生としての基本的な規律の習得や、社会の一員としての規範意識の向上。 	
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標
	学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己の在り方生き方を自ら考える力を育成し、良好な人間関係を構築。 ・ 興味・関心を高める授業改善の実践、分かる授業の推進、基礎学力の定着。
	進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒が社会的・職業的に自立できるようマナーと基礎的な能力の涵養。 ・ 自己の在り方生き方やライフプランを見つめ、主体的に進路選択ができるキャリア教育の実施と豊富な進路情報の配信の推進。
	生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ カウンセリングマインドの活用と、個に応じた生徒理解の推進。 ・ 問題行動要因をアセスメントにより可視化し、認知改善の実施による問題行動の予防推進。 ・ 社会の一員としての自主的・実践的な態度の育成。
	教員研修	<ul style="list-style-type: none"> ・ 積極的な公開授業・研究授業の実施・参観の推進と、教師としての資質や能力及び指導力の向上を目指し研鑽する機会の充実。 ・ 校内研修の組織的な運営による研修内容の精選と、活発な意見交換や情報交換を行うことにより生徒の支援に活かす研修の実践。

年度目標				年度末評価(自己評価)				
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な具体的な取組・方策	県教育振興基本計画での位置付け	達成度の判断・判断基準あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合評価 A. B. C. D	
学習指導	授業中における、SSTを導入した聞く・話す・協力するスキルの獲得を検証します。	1	施策Ⅰ-1	授業アンケートの自己評価の向上、スキル獲得の肯定的回答が75%以上であったか。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートの生徒自己評価は、聞く・話す・書く・協力するスキルそれぞれ80%以上であった。 ・年4回の教育相談を通して個々の課題を確認し、教科担任との情報共有によって支援方針を確認している。 ・授業アンケートによる興味・関心に関する項目は、肯定的回答が80%以上と高評価であった。全項目において、肯定的回答を維持している。 ・ICT機器やタブレット等をすべての教科で日常的に活用できている。 	A	基本スキルに対して意識し、実践できている姿が確認できた。また、昨年度から開設した学習室や、長期休業期間を用いた学習指導などを活用して、継続的な学習支援を行った。ユニバーサルデザインとICT機器の活用により、取り組みやすく学びやすい、分ける授業づくりを実践できているといえる。ICT機器を活用した授業が定着し、活用できている。今後は、公開授業と連動して、ICT機器を活用した授業の実践に関する研修を実施することが望まれる。	A
	生徒の個々の課題を把握し、SSTを取り入れた社会自立につながる実践的な学習指導をします。	8	施策Ⅱ-8	授業アンケートや教育相談を通して個々の課題を確認し、支援に努めたか。				
	基礎的・基本的な内容の定着を目指し、ICT機器を活用した柔軟な学びのシステムを取り入れ、まとめと振り返りにより定着させます。	9	施策Ⅱ-9	授業アンケートにおける興味・関心に関する肯定的評価が、70%以上であったか。				
	UDを取り入れた授業、ICT環境の利活用を促進し、充実感や達成感の得られる授業展開をします。また、教員間の公開授業の実施と公開授業の参観率の向上をします。	23	施策Ⅳ-23	ICT機器やタブレット、各種アプリを効果的に利用したか。職員の公開授業率、参観率が高まったか。				
進路指導	コミュニケーション能力の向上を図り、社会的・職業的自立を支援します。	1	施策Ⅰ-1	面接や履歴書指導など、生徒一人一人に応じた指導ができたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・担任団を中心に、適性や特性などを見極めて適切な指導を行うことができた。 ・各年次において、アンケートを用いて学年に適切なSSTを行った。 ・進路未定生徒は現在19名22.9%となっている。追加指導を行いさらなる減少を試みたい。 ・アルバイトの紹介や、1年次の秋の一日研修に企業見学を入れたり、わが社の自慢展を開催し県内企業取り組みなどを紹介することで、様々な進路情報を発信できている。 	A	もっと生徒が自ら考えて動くことができるように、社会人として考えられるよう指導していきたい。卒業後にしっかりとした社会人として自立できるような指導を心掛けていきたい。また、早い学年から職業意識の向上をはかるため、1年次からの指導に力を入れていきたい。生徒からの反応は良いが、保護者がどのような進路行事を行っているかなど伝わっていないことも考えられるため、対策をしていきたい。	A
	SSTを用いて年次毎に必要な、コミュニケーション能力、自己形成や、社会的自立など様々な場面を想定したシミュレーションを行います。	8	施策Ⅱ-8	ソーシャルスキルトレーニング(SST)を計画的に実施できたか。				
	長期的なライフプランや、堅実な職業観の形成を育成し、社会的・職業的自立を支援します。	12	施策Ⅱ-12	卒業時における進路未決定の生徒を25%未満に減らせたか。				
	様々なキャリア教育関連行事を開催し、豊富な進路情報を配信します。	13	施策Ⅱ-13	キャリア教育活動としての充実した進路行事を実施できたか。「学校評価アンケート」における進路指導関連項目において、肯定的評価が70%以上であったか。				
生徒指導	カウンセリングマインドを柱に生徒との信頼関係を築きます。	4	施策Ⅰ-4	新入生の長欠者を25%未満に減少できたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回、生徒情報交換会を実施した。年次会と生徒指導部、管理職が密に情報共有し、問題の早期発見に努めた。 ・アセスメントを導入し、問題行動要因の可視化を図った。また、認知行動療法による認知改善を実施した。 ・生徒会が中心となって「高校生防災アクション」に参加し、防災意識の向上を図った。 ・MSリーダーズの活動を行った。 	A	新入生の長欠者を約16%に抑えることができた。また、問題行動の再発が3件あった。生徒に対し、認知改善療法により、規範意識を高めることができた。防災アクションとして、年2回の減災力テストを行い、文化祭で防災についての意識を高めることができた。MSリーダーズの活動として、1週間の交通マナーの呼びかけと学校周辺の清掃活動を年間で2回行った。	A
	規範意識を向上させ、問題行動の未然予防・再発を図ります。	1	施策Ⅰ-1	問題行動の再発をゼロにすることができたか。				
	MSリーダーズを中心としたボランティア活動への積極的な参加を勧め、生徒の自己肯定感の向上を目指す。	3	施策Ⅰ-3	MSリーダーズ活動が年間2回以上実施できたか。				
	生徒一人一人に応じた教育相談体制の充実を図ります。	2	施策Ⅰ-2	「学校評価アンケート」の肯定的評価が、生徒60%、保護者70%以上であったか。				
教員研修	公開授業・研究授業の実施・参観期間を設け、積極的な授業研究と参観を促します。	23	施策Ⅳ-23	公開授業の参観率が80%以上であったか。	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業は、第1回の参加率が69%、第2回の参加率が70%となり、目標を下回ってしまった。 ・外部講師を招き、生徒対応や愛着障がいについての講演会を開いた。参加率は85%であった。 ・研修後アンケートにて、参加者全員の満足度が高かった。研修グループに参加した職員に、研修後の実践についてアンケートを取り、全員が研修で学んだことを生徒対応で実践していた。 ・校内の職員が講師を務めた研修会を複数回開催し、いずれも研修後アンケートにて参加者の満足度が高く、その後の生徒支援に活かす姿が見られた。 	B	内容に関しては、本校生徒への対応に特化した内容の講演会を開催できた。ただし、教員研修の参加率の向上が課題である。研究授業を含む実施時期の見直しや、参加呼びかけの工夫も必要である。今年度は、授業や生徒対応をテーマとした職員研修を行った。校内の職員の強みや専門分野を活かした研修会を開催し、他の職員に優れた実践を共有できた。次年度は、意見交換を主とした研修会の定期開催と、生徒対応における実践と内容とした研修を検討している。また、それ以外のテーマに需要があるかも調査する必要がある。	B
	外部講師による、生徒支援、進路支援または学習指導に関する研修を実施します。	26	施策Ⅳ-26	研修参加率が80%以上であったか。				
	活発な意見交換および情報交換を目的とした、希望者参加型の校内研修を定期的に開催し、教員間で連携して指導力向上を目指す機会を充実させます。	20	施策Ⅳ-20	研修後アンケートで肯定的意見、満足度を調査し、年度末に生徒支援・学習指導に活かされたか。				
	優れた取り組みを行っている教員が講師を務め、実践に基づいた研修を実施します。	26	施策Ⅳ-26	研修後アンケートで肯定的意見、満足度を調査し、年度末に生徒支援・学習指導に活かされたか。				

来年度に向けての改善方策等

実施日：令和7年1月21日

<ul style="list-style-type: none"> ・成績不振生徒の学習状況を、教務・教科担任・クラス担任で適切に情報共有できる体制を整え、継続的に学習支援を行う。いついつ本人の学習に向かう姿勢・気持ちの育成も支援する。学習経験の乏しさからうまく学習に向き合えない生徒に対し、卒業までの目標・道筋を示せるようにする。 ・進路指導においては、社会とのつながりを大切に、生徒が社会と接する機会を増やすことで、社会人としての自覚を形成しつつ、社会へ出ていくことができるように心掛けて指導する。 ・生徒情報の共有をより密に行い、個々に適った支援、指導を行う。生徒の抱える問題行動要因が多様化しているため、その背景を正確に把握していくためにアセスメントを事前実施し、可視化した情報を共有する。 ・カウンセリングマインドを心掛け、生徒との信頼関係の構築を実施し、日常的な生徒支援を継続して実施する。 ・虐待、ヤングケアラー等の早期発見、早期対応を心掛け、外部の専門機関との連携を密にし、卒業後も途切れない支援を考える。

学校関係者評価

実施日：令和7年2月4日

<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導で問題を抱える生徒に多くの教員が付き添ってくれている。問題を抱える生徒を一人でも少なくしたいという思いが大切であり、教育環境で一番大切なのは教師であることを意識して欲しい。 ・職員研修の取り組みは大切であり、公開授業で教員同士がお互いに感想を言い合うことが良い。 ・全日制課程から転入学してくる生徒が増えている。多くの生徒が悩みをもっており、多様な生徒が来ている。 ・SDGsの取り組みは素晴らしいことです。しっかり取り組んで欲しい。
